

13 Dec. 2013



第45号

JAAGA だより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区市谷
砂土原町 1-2-34 KSKビル3F

編集：JAAGA事務局

印刷：ヨシダ印刷株式会社

ホームページ：<http://www.jaaga.jp>

レッド・フラッグ・アラスカ演習参加隊員を激励 JAAGA boosts the morale of JASDF participants in RED FLAG-Alaska

7月24日（水）、小川理事長、長島、早坂理事が中部航空方面隊司令官清藤勝則空将を、7月25日（木）、小川理事長、彌田、杉山理事が航空支援集団司令官廣中雅之空将を、それぞれ訪れ、平成25年度の米空軍演習（レッド・フラッグ・アラスカ）に参加する隊員に対する JAAGA からの激励品を手交し訓練の成功を祈念した。

清藤中空司令官からは「御支援に感謝します。明日7月25日小松基地で行われる編成完結式で隊員に紹介させて頂くとともに、訓練の成功に役立たせて頂きます」と、廣中支援集団司令官からは「航空支援集団の演習参加も年々深化し、今回は総隊とともに戦術空輸訓練等を実施します。JAAGA からの御支援に参加隊員の士気は更に高まる事でしょう」とそれぞれ感謝の意が表せられた。

今年度は、7月25日（木）～9月6日（金）（うち、レッド・フラッグ・アラスカ演習期間は8月9日（金）～8月24日（土））、航空総隊及び航空支援集団のF-15×6機、E-767×1機、C-130×3機、人員約270名が、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエレメンドルフ・リチャードソン米軍統合基地並びに同周辺空域等において防空戦闘訓練、空中給油訓練及び戦術空輸訓練を実施し、部隊の戦術技量及び日米共同対処能力の向上を図った。

なお、今回の演習では生存可能時間の向上が図られた新型耐寒耐水服を着用した他、GPS 機能付きの救難信号発信機を携行した。また、F-15の本邦～アラスカの移動においては、米空軍空中給油機による空中給油支援を受けた。（早坂、杉山理事記）



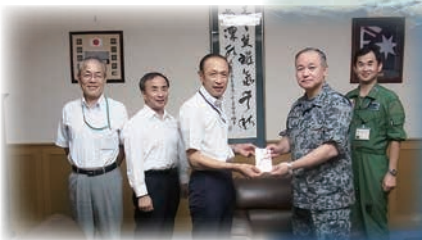
After finished exercises all, Warriors of JASDF who participated in Red Flag Alaska in Eielson AFB on Aug.25th



Lt. Col. Miyake and Maj. Ogawa who were interviewed by Air Force Magazine



JASDF men pray for peace and the souls of the Japanese dead in WW II at Elmendorf - Richardson Joint Base National Cemetery



日米下士官相互部隊研修(美保基地)を支援

Japan-U.S. Bilateral NCO Exchange Program

平成25年6月13日(木)から6月19日(水)までの間、美保基地において、日米下士官相互部隊研修(平成24年度計画)が実施された。

第3輸送航空隊及び美保基地所在部隊の研修や基地周辺の見学を通じ、日本文化の理解と意思疎通を図りつつ、隊員の特技能力及び英語能力向上を図ることを目的として行われた本部隊研修には、第374空輸航空団(横田基地)の8名の米空軍軍人が参加した。

研修参加者は、有線整備、輸送、補給、衛生等の特技を有する軍人達であり、それぞれが3輸空隊の各部隊において自分達の特技に関係のある部隊での研修に臨んだ。

研修開始当初は受け入れる側の美保基地隊員も米空軍下士官達も緊張した表情であったが、ウェルカム・パーティを皮切りに時間の経過と共に少しずつ相互のコミュニケーションが進み、談笑する光景も見られるようになった。普段、接する機会の少ない米軍下士官達との交流は美保基地の隊員にとっても貴重な経験となり、新たな友情と信頼の醸成に一役買うこととなった。

研修半ばの土・日曜日には、ホーム・ビジットも行われ、米空軍下士官達はそれぞれの家庭において日本のお袋の味に舌鼓を打った。また、出雲大社や松江城等の史跡研修も行われ神話の国を探訪した。

18日(火)には第374空輸航空団前任下士官 CMSgt. Manuel Roblesreynoso、交流担当者 MSgt. Souza John の2名が美保基地司令野中盛1等空佐を表敬した。

懇談の中で野中基地司令は「研修基地に美保基地を選んでもらい感謝しています。今後も日米



Soldiers of USAF for NCOs Exchange Program arrive on Miho AB

の絆を深め部隊研修等を通じてお互いの信頼を深めていきたい」(要旨)と述べた。CMSgt. Manuel Roblesreynoso も「とても素晴らしい基地ですね。これからもぜひ美保基地で研修を行いたい」と返答した。その後、記念品の交換がおこなわれ終始和やかな雰囲気の中、表敬訪問は終了した。

同日夕刻、フェアウェル・パーティが行われ、うち解け合った日米下士官達は研修間の思い出を語り合った。この中で日米下士官達は、「短い研修期間ではあったがお互いの特技について相互理解が図れた」と述べた。また、3輸空隊隊員は「英会話能力が格段に向上した」と、米軍下士官は「日本の生活、文化及び武道等に触れることができ、大変有意義であった」と、それぞれ所見を述べた。

19日(水)の朝、研修を終了した米空軍一行は基地の関係者らに見送られ美保基地を後にした。

(第3輸送航空隊准曹士前任高津芳治准空尉記)



CMSgt. Manuel Roblesreynoso pay a courtesy call to Col. Nonaka, Commander of Miho AB



On the job training ? at maintenance shop

スペシャル・オリンピックスを支援

Special Olympics

1962年6月にケネディ大統領の妹ユーニス・ケネディ・シュライバーさんが自宅の庭を開放して35名の知的発達障害のある人たちを招いてデイ・キャンプを行なったのが始まりとされるスペシャル・オリンピックスは、以来毎年、米空軍の横田、嘉手納及び三沢基地で行われている。JAAGAはこの行事にささやかではあるが支援の手を差し伸べている。「精一杯力をだして勝利を目指そう、たとえ勝てなくとも、がんばる勇気をあたえよ」の宣誓の言葉とともに、本大会は170ヶ国からなる340万人が参加するスペシャル・オリンピックスのプログラムへと繋がる。

6月1日（土）、爽やかな晴天の下、米軍横田基地で知的発達障害のある選手150名、そして、ボランティア500名が参加する第34回関東地区スペシャル・オリンピックスが開催された。開会式に先立ち、アメリカン・スクールの女子生徒による日米両国歌の独唱があり、主催者を代表して第374空輸航空団運用群司令 Col. David C. Gould II の挨拶があった。

来賓として、基地周辺の市長をはじめ、友好クラブ、地域支援者及び航空自衛隊から防空指揮群司令兼航空自衛隊横田基地司令柏瀬静雄1等空佐が招待された。JAAGAからは小川剛義理事長、阪東政詮、高橋健二両理事が出席した。

主催者から大会の支援者に対する感謝状授与がおこなわれ、JAAGAを代表して小川理事長に手渡された。その後、選手による聖火台の点火が行われセレモニーは終了し、競技会へとプログラムは進行した。（高橋健二理事記）

第27回三沢基地スペシャルオリンピックが10月12日（土）10時から選手約100名、ボランティア約200名が参加して盛大に行われた。

当日は秋晴れの肌寒い天候であったが、国旗入場、国歌斉唱に続き、三沢基地司令 Col. Stephen Williams の開会宣言で競技を開始し、参加者一同それぞれ趣向を凝らした競技に汗を流していた。なお開会に先立ち JAAGA からの寄付を三沢基地司令の Col. Williams に手交した。Col. Williams からは JAAGA への感謝の意が表された。

（丸山三沢支部長記）



Plaque of Appreciation for the support of Special Olympics in Yokota AFB presented to JAAGA Chief Dir. Ogawa by Col. David C. Gould II, 374th Operations Group Commander on Jun.1st



Lighting ceremony of the Olympic flame platform at Yokota AFB



Mr. Maruyama, Head of JAAGA Misawa branch and Col. Stephen C. Williams, Commander of The 35th Fighter Wing on Oct.12th



Participants enjoy games in Special Olympic at Misawa AFB

SPORTEX'13A 開催

SPORTEX'13A, a Japan-US friendship golf athletic meet, is held

平成25年11月8日（金）、SPORTEX'13A が米軍多摩ヒルズ・ゴルフコースにおいて開催された。前日の悪天候とはうって変わり、早朝5時前から満天の星のもと参加者が集合し始め、6時半から素晴らしい日の出とともに開会式が行われた。

JAAGA からは吉田会長をはじめ正会員及び賛助会員の計46名、米軍からは多忙な状況の中、第5空軍司令官 Lt.Gen.Salvatore A.Angelella 以下22名が競技に参加し、また日米双方5名が各種支援を行った。吉田会長からは「昨夜はレセプションで司令官と御一緒したが、一番重要な SPORTEX のために二人で申し合わせて、早めに切り上げた。今日は、良きライバルとして日米のフレンドシップを深めつつプレイを楽しみたい」との挨拶があり、Lt.Gen. Angelella からは「昨夜は総理も出席された重要な宴であったが、どうも SPORTEX の重要度はそれ以上ようだ」と述べ、なごやかな雰囲気の中、7時を期して一斉に競技が開始された。秋晴れの暖かなコンディションに恵まれ、真白な富士を遠望し、日米友好と会員間の親善を醸しながら競技は進行し



Players in Sportex'13A, JAAGA and USAF members at Tama Hills GC

た。競技終了後、プレーの内容を楽しく話題にしつつ昼食となり、昼食後、成績の発表、表彰式が行われた。

今回はハンディ計算を行わずグロススコアにより順位を決定し、同順位の場合は高い年齢からの順位付とした。日米各最優秀賞、ドラコン、ニアピン及び多くの飛び賞に当たった各受賞者に賞品が贈られた。

閉会にあたり会長からは「3位の司令官には負けたが楽しくプレイが出来て SPORTEX が盛会の内に終了したことを嬉しく思う」と述べ米軍競技支援者と多摩ヒルズ・ゴルフ関係者への御礼の挨拶があった。司令官からは関係スタッフへの感謝の言葉とともに「実は、今日の SPORTEX に参加したクリス中佐 (Lt Col. Christopher Neims) の退官セレモニーを午後実施する。彼は退官の日の思い出に、空自に関係する方々とプレイしたいと言っていた」との紹介があった。その紹介に JAAGA を介した米空軍と空自の絆を感じつつ、午後1時過ぎ、SPORTEX'13A は終了し、参加者は賞品や良き思い出をいただきながら多摩ヒルズを後にした。

(杉山理事記)



JAAGA Adv. Totake, President Yoshida, Lt. Gen Salvatore A. Angelella, Vice Pres. Nagaiwa at the party after game in clubhouse

米軍人の「ねぶた2013」参加を支援

USAF Airmen participate in Aomori Nebuta Festival

8月3日（土）19時～21時、青森の「ねぶた祭り」に米空軍三沢基地司令 Col. Stephen C. Williams 以下35名の米軍人及びそのご家族が参加した。当日は天気にも恵まれ大勢の観客が見守る中、17台の山車の運行が行われ、三沢基地からの参加者は、青森市のねぶたの山車とともに市内をラッセラーの掛け声と軽快なステップで跳ねて、祭りの醍醐味を満喫した。

JAAGA では毎年、米軍関係者のねぶた祭り参加を支援している。

(丸山三沢支部長記)



Nebuta festival in Aomori city on Aug.6th, 35 American people enjoy dance shouting "Rassera~ Rassera~", including Col. Stephen C. Williams, Commander of the 35th Fighter Wing

第18航空団司令にジェームズ・ヘッカー准将着任

18th Wing welcomes Brig Gen James B. Hecker as new commander

平成25年5月13日、米空軍第18航空団司令（嘉手納）の交代式が嘉手納基地で行われ、JAAGAからは吉田正会長が参加した。指揮権交代式は、第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella 主催により厳粛に執り行われ、前団司令の Brig. Gen. Matthew H. Molloy はコロラドの北方軍（Northern Command）の J-3 部長に転出し、新団司令には Brig. Gen. James B. Hecker が着任した。Brig. Gen. Hecker は、一昨年 JAAGA 訪米団が無人機運用の Creech 基地（ネバダ州）を訪問した際、基地司令であった。ここからの着任である。（吉田会長記）



JAAGA President Yoshida pay a courtesy call to Brig. Gen. James B. Hecker, New Commander of The 18th FW, at Kadena AFB on Mar. 13th

横田基地エア・フォース・ボール2013

JAAGA participates in the Air Force Ball in Yokota Air Base

9月21日（土）、米軍横田基地の太陽コミュニティー・センターで米空軍創立66周年を祝う「エア・フォース・ボール」が開かれた。

会場は第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella、米軍横田基地司令兼第374空輸団司令 Col. Mark R. August をはじめ約1000人の参加者で埋め尽くされた。航空自衛隊からは航空総隊司令官中島邦祐空将、同副司令官吉田浩介空将及び防空指揮群司令兼航空自衛隊横田基地司令柏瀬静雄1等空

佐等が招待され、JAAGAからは阪東、高橋両理事及び石川会員が出席した。

国旗入場、両国国歌独唱のあと神への祈り、August 基地司令の挨拶があり、その後ケーキ入刀のセレモニーが行われた。軍人は正装（Mess Dress）、女性はパーティー・ドレスで会場はとても豪華な雰囲気だった。音楽隊の演奏にあわせてダンスがあり、終始、祝賀を祝う楽しい晴れやかなエア・フォース・ボールだった。（高橋理事記）



With Lt. Gen. & Mrs. Angelella and Lt. Gen. Nakashima on "Air Force Ball" at Yokota AFB on Sep.21th



About 1,000 Participants celebrate and enjoy the party

JAAGA会員の横田基地研修

JAAGA members visit Yokota Air Base

9月11日（水）、JAAGA 会員44名（正会員11名、賛助会員23名及び理事5名）が参加し横田基地研修が行われた。当日早朝は生憎の小雨模様、参加者一同、9時半に福生駅に集合、清水正陸氏（正会員）を団長、上出雅彦氏（賛助会員）を副団長として団結式を行った後に、米軍車両にて横田基地に向かった。今回の研修では残念ながら第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella 及び航空総隊司令官中島邦祐空将が所用のため共に不在という状況の中で行われたが、航空総隊司令部が横田基地移転後もない3回目の研修ということもあり、参加した会員の多くは初めての当基地研修であった。

到着後、研修団一行は第5空軍司令部を訪れ、第5空軍副司令官 Brig. Gen. Jerry D. Harris の出迎えを受けた。清水団長、上出副団長及び理事2名と Brig. Gen. Harris との懇談では、清水団長から本研修の受け入れに感謝の意を伝え、Brig. Gen. Harris からは本研修を心から歓迎するとともに JAAGA の米空軍に対する日頃の様々な活動や支援に対し心から感謝する旨の発言があった。その後、研修団一行はコンファレンス・ルームにて第5空軍の概況説明を受けた。第5空軍の歴史、任務、編成等の説明の他、極東地域における日本の戦略的位置、日米同盟の意義、重要性等について説明があり、在日米空軍のプレゼンスの重要性を強調した意義深い内容であった。ブリーフィングの後、オフィサーズ・クラブにおいて JAAGA 主催の昼食会が行われた。昼



Brig.Gen. Harris and Mr. Shimizu, the leader of JAAGA Tour members at conference room of 5AF Hq

食会には米空軍からは Brig. Gen. Harris、第374空輸航空団司令兼米軍横田基地司令 Col. Mark R. August、空自側からは航空総隊司令部幕僚長國分雅宏将補、同戦術官平塚弘司空将補、防空指揮群司令兼航空自衛隊横田基地司令柏瀬静雄1等空佐、その他日米双方の主要指揮官・幕僚が参加、会員と共に円テーブルに同席し大きな牛ステーキに舌鼓を打ちつつ楽しい会話に花を咲かせた。午後には雨も上がり、会食後のクラブ玄関前での記念撮影に続き、第374空輸航空団の研修を行った。概況説明では、同輸送航空団は太平洋空軍に所属し、西太平洋から



C-130's flight on LCLA (Low Cost Low Alt.) training



Photo section after luncheon, JAAGA member with USAF and JASDF staff

アフリカ大陸沿岸東部に及ぶ広大な空域を担当、基地内には軍人・家族、軍属等約12,000名が生活もしくは勤務、東京ドーム155個分の広大な敷地と施設を維持管理している旨の説明があった。その後、C-130輸送機2機によるLCLA (low cost low altitude) 物資投下訓練をエプロン地区から見学、物資格納庫内でロード・マスターから訓練概要の説明を受けた。

午後3時からは航空総隊司令部研修に移行、司令部では國分幕僚長による出迎え、記念撮影の後、司令部施設の研修、平塚戦術官及び防衛課長加治屋秀

昭1等空佐による概況説明を受けた。会員の航空自衛隊を取り巻く諸外国の政治・軍事動向についての関心は高く、ここでも積極かつ活発な質疑応答が時間ぎりぎりまで行われた。16時半には研修も無事終了し、解団式の後、空自車両にて基地を離れた。

本研修においては、横田基地に航空総隊司令部が移転、同居し、日米同盟の実が格段に向上したことを空自、米空軍双方が強く認識していることを肌で感じられ、会員一同本研修を十分に満喫することができた。
(早坂理事記)

米空軍士官学校交換留学生のホスト・ファミリーに

JAAGA member becomes a host family for U.S. Air Force Academy exchange student

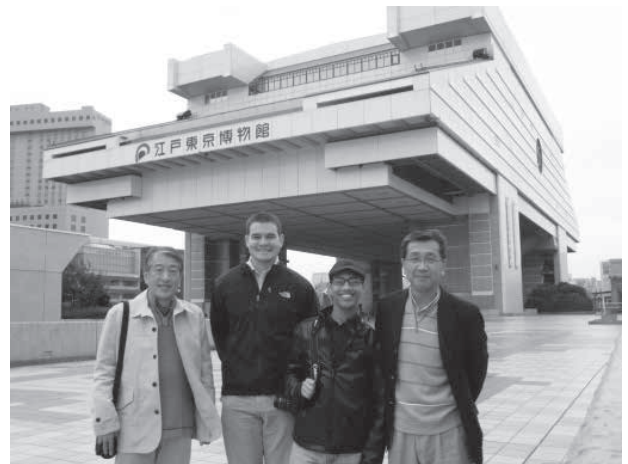
平成25年9月2日（月）午前11時から防衛大学校において、本年度米空軍士官学校から派遣された2名の交換留学生のホストファミリーに対する委嘱状授与式が行われた。当日は、国分学校長からJAAGAボランティアとして参加した渡邊理事（桃木理事は所用のため欠席）に対して委嘱状が手渡された。今年のホスト・ファミリーを務める渡邊、桃木両理事は、ともに米国での勤務や留学の経験を有する防大20期の同期生であり、昨年に引き続いての登板である。

留学生は、8月27日（火）元気に着校した Vincent McPeak 学生と Jose DeJesus 学生の2名で、日本滞在期間は12月中旬までの4ヶ月弱である。同時期の留学生には、米海軍士官学校から2名、VMI（ヴァージニア州立軍事大学）から1名、フランス空軍士官学校から1名、オーストラリア陸軍士官学校から1名の計5名がいて、横須賀近郊の海自OBと一般の方が引き受けているとのことであった。

委嘱状授与式、懇談の後、学生食堂横の職員食堂において、ホスト・ファミリーと留学生が初めて対面し、昼食（カレーライス）を共にした。2名とも日本語が堪能で、食事中は終始英語よりも日本語での会話が弾み、お互い一気に打ち解けることができた。彼らは日本食の通でもあり、焼き鳥や刺身が大好きで、日本のビールの大ファンであるとのことだった。

11月9日（土）に彼らを招待しての東京研修（見

学）では、浅草、両国を中心に江戸文化や下町の風情を体感してもらった。
(渡邊理事記)



JAAGA invited USAF cadets to "Tokyo-Shitamachi Sightseeing" (in front of EDO-TOKYO MUSEUM)



USAF Cadets with Monument of the first president and students of N.D.A.

「つばさ会/JAAGA訪米団」AFA 総会参加等報告

Report: TSUBASA-KAI and JAAGA participate in AFA general meeting in U.S.

平成25年度の「つばさ会/JAAGA 訪米団」は、航空自衛隊と米空軍の友好親善を推進するとともに米空軍の実情を研修することを目的として、外薮健一朗元空幕長を団長に、永岩 JAAGA 副会長、堀同副会長、森下、小野田同理事の5名の訪米団が、9月8日から同19日まで米国を訪問した。例年、米空軍協会（AFA：Air Force Association）の年次総会への参加に併せて米空軍基地等の研修を行っているが、今年度は9月16日から18日の年次総会に先立って、米太平洋空軍、APCSS（Asia Pacific Center for Security Studies）、日本総領事館（以上、ハワイ州ホノルル）、第33戦闘航空団（フロリダ州エグリ）、国防総省、日本大使館、スティムソン研究所（以上、ワシントンDC）を訪問した。それぞれの訪問先において、日本勤務経験のある米空軍現役高官、JAAGA 名誉会員の歴代第5空軍司令官との旧交を温めるとともに、要職にある現役高官、日本及びアジア研究者、AFA 会長等と有意義な意見交換を行い、相互の友好と信頼の絆を深め、また米空軍の現状と課題、今後の動向について知見を得ることができた。

航空機がホノルルに到着すると、雲一つない爽やかな晴天とともにカーライル太平洋空軍司令官（Gen. Herbert J. “Hawk” Carlisle, PACAF/CC）自



Courtesy visit to Gen. Herbert J. Carlisle, Commander of Pacific Air Forces



JAAGA delegation with George Mr. K. Muellner, Chairman of the Board, Gen. Edward A. Rice Jr., Commander Air Education and Training Command

ら、日曜日にもかかわらず訪米団を出迎えていただいた。さらに司令官には夕刻も米太平洋艦隊司令官専用のポートで真珠湾内を案内していただいた。湾内でひと際目を引いたのが、SBX（Sea Based X-band Radar）と呼ばれる弾道ミサイル対処用の海上配置型 X バンドレーダーである。米海軍が運用しており、必要に応じてタグボートでけん引して海上を移動することができる。橋脚部分を海中に沈めてプラットフォームが安定するように設計されているとのことであった。FPS-5と形は異なるが、その巨大なレドームは優れた探知性能を想起させるものだった。

月曜日の朝一番から司令官に表敬の後に、司令部幕僚在席の中を司令官自らブリーフィングしていただいた。表敬の際には司令官から我が国周辺の情勢認識、我が国の国内事情、日米間の連携、日米共同訓練の課題などについて矢継ぎ早の質問をいただくとともに、ブリーフィングでは太平洋空軍の置かれた環境、戦略、活動、日米共同訓練の状況、各国との連携の現状、米国のリバランスの状況などについて説明いただいた。意見交換においては、総隊司令部横田移転後の相互連携について、更なる情報の共有化が必要であること、ISR 能力、F-35、空中給油能力などは重点的に注力すべきことなどが話題と

なった。また、米国の予算強制削減の影響について、アジア太平洋地域は優先度が高いので戦力規模や共同訓練などは維持していきたいと表明された。

ホノルルでは、米太平洋軍隷下の APCSS を訪問した。ここはアジア太平洋諸国の政府関係者等に対して安全保障に関する知識、課題対処の技能、人的ネットワークを修得する場を提供し、地域の協力関係拡大に寄与することをめざしており、期間1か月程度のプログラムを年間6コース程度実施している。日本からは外衛団長をはじめ、不定期に防衛省の内局職員及び自衛官などが参加してきたが、さらに多くの要員に参加してほしいと要望された。重枝総領事への表敬では、米軍とは大変に良い関係を維持しており、米軍指揮官の積極的な交流姿勢に感謝の意を表明された。総領事主催の夕食会には Gen. Carlisle も出席され、席上で領事館主催の月見の会に太平洋空軍の音楽隊を派遣してほしいとの要請に対して司令官から快諾をいただくという一幕もあった。また、総領事から日本と南太平洋諸国との関係緊密化が必要との意見に Gen. Carlisle も同意見だと意気投合した。

滞在間、米太平洋空軍連絡官の谷川2佐、能勢2佐には、準備段階から大変なご尽力をいただき、感謝申し上げたい。

ホノルルを水曜の早朝に出発、次の目的地であるフロリダ州エグリン空軍基地に到着したのは、木曜日の深夜だった。途中、航空機の遅れで乗継がうまくいかず、ヒューストン空港で半日以上を費やしたが、目的地で出迎えてくれた米空軍の女性隊員二人



Tour of Eglin AFB with F-35



Briefing on F-35 with Gen. Edward A. Rice Jr. and Col. Todd Canterbury, Commander of The 33rd FW at Eglin AFB

の姿を見ると、訪米団の顔は笑顔に変わり、移動の疲れもどこへやらとばかりにジョークが飛び交った。

翌朝、第33戦闘航空団司令部に向かうと、朝方にテキサスから飛来した教育訓練コマンド司令官で元第5空軍司令官のライス大將（Gen. Edward A. Rice, AETC/CC）が我々を待ち受けていた。Gen. Rice は、10月に退官されることが決定しており、多忙な中を訪米団のためにわざわざ駆け付けて下さったのだった。33空団司令のカンタベリー大佐（Col. Todd Canterbury, 33FW/CC）は、かつて航空自衛隊50周年の際に飛来したサンダーバーズの5番機であり、Gen. Rice を交え団司令からブリーフィングを頂いた。33空団は、2011年7月の F-35初号機受領以来、約2,200ソーティ、3,000時間の飛行実績を重ね、約70人のパイロットと約800人の整備員を養成した。第5世代機は複雑だと考えるのは誤解で、実際の操縦は極めて容易であり、多くをシミュレーターで習得可能とのことであった。

実機、整備施設、教育施設と研修したが目を見張ることばかりであった。実機は、3次元整形された複合材等によってステルス性を高めており、機体の上下面に配置された計6個の IR カメラによって HMD の360度の視界が提供される。アンテナは機体表面に配置されていて突起物はない。機体内の弾薬スペースには、AMRAAM や JDAM が搭載される。

整備施設では、温度や湿度の制御ができる整備ハンガーが用意されており、故障発生の可能性を事前に予知するための環境試験ができるようになっている。整備員は、整備データ、補給データ、マニュアル

ルなどがすべて記録される ALIS (Autonomic Logistics information System) を用いて整備補給を行う。このシステムは、単にデータを集約するだけでなく、飛行中の機器の作動データやスイッチ操作など、着陸後にシステムに入力されたデータから故障の兆候を分析して、整備員に部品の信頼性交換や必要な整備指示を出すという画期的な機能を有しているとのこと。我が国の整備員の教育はこれからだが、マニュアルを含めて全て英語なので航空自衛隊にどう適合させるかが課題である。教育講堂の座学教場は、コンピュータ画面で教育が行われ、部品の配置やアクセス、整備要領などが3次元で表示される。兵装実習教場には、A、B、C、各タイプの兵装が実習できるよう実機のモックアップが配置されており、相互運用能力を修得できる仕組みになっている。操縦用のシミュレータは現在5基だが、10基までのスペースが確保されており、将来の教育所要増に応じて増設するそうである。

F-35の導入は、空自の能力面だけでなく、整備補給のコンセプトを抜本的に変更することになる。ALISという各国、各軍種統合のコンピュータ・システム／データベースがそのキーとなるとともに、教材、整備マニュアル、運用解析まですべて英語で処理されるこのシステムを、空自の現場部隊にいかに対応させるかが課題である。現在のところ、米空軍自身も運用初期段階であり、ALISを使い込んでデータを集積し、必要な修正を加えている段階であるように見受けられた。

ワシントンでは、JAAGA 名誉会員の米側退役将



JAAGA delegation with Ambassador Kenichirou Sasae at Embassy of Japan in The USA



With Gen.(Ret.) Norton A. Schwartz at Washington D.C.

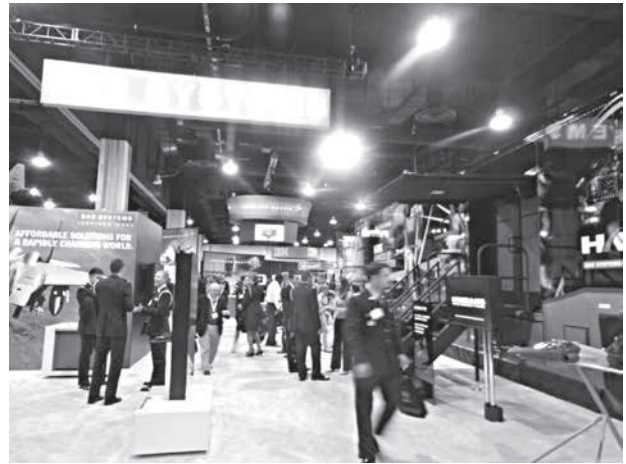
官に温かく迎えられ、恒例となったJAAGA主催の夕食会には、名誉会員ご夫妻に加えて日本勤務経験のある現役将官ご夫妻、さらにノートン・シュワルツ前参謀総長 (Gen. Norton A. Schwartz (Ret.)) ご夫妻も出席して30名を越える賑わいとなった。会食の最後にマイヤーズ元統合参謀本部議長 (Gen. Richard B. Myers (Ret.)) が行ったスピーチを、本報告を読んでいただいたみなさんと共有したいと思う。紙面の都合上、一部のみとさせていただくことをお許しいただきたい。「北東アジアにおける不透明不安定な状況下、今ほど日米関係が重要である時はない。その中で特筆すべき事項が3点ある。第1点は、NSC の設立によって安全保障の議論が国家レベルとなり、情報が共有され、自衛隊のリーダーに発言の場が与えられるということ、第2点は、情報保護法制定によって情報の共有が進むということ、そして最大の点は、憲法または法律改正によって集団的自衛権行使が可能となることである。これら3つの事項は両国の関係にとって決定的に重要な事項である。先日、自分ほか退役軍人などが佐々江大使公邸に招かれた。席上、我々がNSCについて喜んでアドバイス役になること、自分達が自衛隊の退官将官と長きにわたって良い関係を築いていることを強調した。先週、空幕を訪問した際、偶然 JAAGA 訪米団が空幕からブリーフィングを受けている場面に遭遇した。次世代を担う若い世代と JAAGA がともに真剣な準備を経て訪米されていることを知り、一層の信頼感を感じた次第である。ありがとう JAAGA」

3日間にわたる米空軍協会のコンファレンスは、地下階に約5万平方フィートの展示場が設けられ、有人機、無人機、ISR 関連装備品、サイバー関連装備品など様々な展示が行われたが、規模的には昨年よりやや縮小された感じを受けた。地上階では大小の会議場において、様々なテーマで発表・質疑応答が活発に行われた。最も多数の聴衆を集めたのはウェルシュ参謀総長（Gen. Mark A. Welsh, AF/CC）の講演で、エアマンこそが空軍の力の源であり、空軍のコンセプトを実現する主体であるということ、多数の模範隊員の物語を紹介しながら、ユーモアを交えつつ聴衆の感情と理性に訴えかけ、聴衆を魅了した。会議全体としては、予算強制削減の影響について言及する発表や質疑が多かったこと、そして予算削減は空軍が新たなイノベーションを起こさねばならない挑戦の場なのだとするプラス思考が語られていたことが大変印象的であった。

会議の合間には、今回初めて、在ワシントンのシンクタンクの研究者との意見交換を行った。先方からは、NSC の設置、新たな防衛計画の大綱・中期防の優先事項、日米協力の課題などについて質問があり、当方からは米国の予算削減の影響、エア・シー・バトルの状況について質問を行い、有意義な意見交換となった。国防総省では、A2部長のオットー中將（Lt. Gen. Robert P. Otto, A2/AFHQ）、A3/A5部長のフィールド中將（Lt. Gen. Burton M. Field, A3/A5/AFHQ）（前5空軍司令官）、統合参謀本部 J5副部長のスティルウェル准將（Brig. Gen. David R. Stilwell, J5/JCS）を訪問し、地域情勢、



Tea time at New house of Lt. Gen. (Ret.) & Mrs. Bruce Wright, former commander of The 5th AF in Japan



AFA Exhibit Floor



AFA Exhibit Floor F-35 HMD Helmet

日米共同の在り方などについて意見交換を行った。佐々江大使への表敬では、JAAGA と米空軍退役将官の交流について、もっと広報するべきだと積極的なご意見を頂戴した。

JAAGA 名誉会員ほか米空軍との交流に際しては、エバハート大將（General Ralph E. Eberhart, (Ret.)) に一方ならぬ御調整を頂き、またご夫妻にご自宅でのカクテル・パーティーにご招待いただいた。ライト中將（Lt. Gen. Bruce A. Wright）ご夫妻にも夕食会後に新築のご自宅にお招きいただき夜半までお世話になった。訪米全般にわたって、米大使館防衛駐在官の引田将補と廣田2佐には諸調整からアテンド、ホーム・パーティーに至るまで多大なるご支援を頂いた。紙面を借りて一言御礼を申し上げたい。終わりに今回の訪米に際して、ご支援ご協力いただいた関係者各位のご厚誼に心から厚く御礼を申し上げ、報告の締めくくりとする。 （小野田理事記）

【特集】日米幹部夫人交流「みどり会」活動紹介

Japan-U.S. Bilateral Spouse Exchanges in Misawa Air Base

空自と米空軍の更なる信頼関係を醸成する活動の一環として、幹部のご夫人方による相互親睦を図る交流が横田や三沢基地等で行われている。第1回目の今回は、三沢基地の「みどり会」のなごやかで心温まる交流を紹介する。

みなさん、こんにちは。今日は皆さんにこの機会をお借りして、私たち「みどり会」について少しご紹介をさせていただきます。

まず、みどり会とは三沢基地における日米の幹部夫人親睦会で、年に8回行われる日米交流会を通じて互いの親睦を深める目的で集まっています。現在は、日米を合わせますと約30名の女性メンバーがおり、北部航空方面隊司令官令夫人森本朋子会長をはじめとして、米空軍第35戦闘航空団司令官令夫人 Holly Williams さんらと月に1度ほど、様々なイベントを企画しながら、交流を深めています。

最近では、去る9月13日に交流会を開き、おいらせ町のカワヨグリーン牧場まで足を伸ばしてきました。牧場体験の一環として、手作りソーセージ体験に挑戦し、ハーブやスパイスを調査して本格的なものが出来上がりました。初めての方がほとんどでしたが、中には、ご幼少の頃からお母さまがよく作ってくれたそうで、とても手慣れているアメリカのご夫人もおられ、私たちにお手本を示して下さいました。お昼ごはんはバーベキューで盛り上がり、ゆで

たてのソーセージをグリルしながら、誰の作ったものが一番美味しいか味比べをして会は一層盛り上がりました。

他にもこれまでに、和菓子職人さん直伝の和菓子作りに挑戦したり、筆ペンを使ったお習字やひな人形の折り紙体験などを企画して、アメリカのご夫人方が少しでも日本に親しみを持って頂けるように日本文化について紹介して参りました。また、私たち日本人もアメリカ文化に触れる機会に恵まれて、昨年12月に Holly さんのご自宅で行われたクリスマスパーティーの際は特に、アメリカのご夫人方から手厚いおもてなしを受けて大変感動いたしました。笑い声が絶えず、言葉の壁を超えてアットホームで心温まる貴重な経験をさせていただきました。

このように、私たちみどり会は互いの文化について学ぶ機会に沢山恵まれ、様々な交流会を通して日米の親睦を深めています。「成長」、「調和」、「豊かさ」を象徴する緑色は、私たちが大切にしている価値観にとってもよく合っていることから「みどり会」と名付けられたそうです。夫人同士の交流は、航空幕僚長も重要視されていると聞き及んでおります。日米友好関係の重層的発展に繋がるという信念のもと、三沢基地でもこうした日米友好関係の構築に少しでも寄与できるよう、みどり会は今後も心をひとつにして皆さんとともに成長していきたいと願っております。

(みどり会事務局)



In the September Midori-Kai gathering, a group of 20 American and Japanese ladies visited the Kawayo Green Farm and experienced sausage making.

新入会員紹介

1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
重久修氏	埼玉県久喜市	吉岡秀之氏	東京都西東京市
日吉章夫氏	千葉県柏市	石野次男氏	東京都小平市
平田英俊氏	千葉県白井市		

2 個人賛助会員

氏名	住所	氏名	住所
高橋幸子氏	東京都渋谷区	久野登久子氏	東京都世田谷区
Dylan Monaghan氏	東京都世田谷区	河村嘉男氏	愛知県名古屋市
太田泰之氏	愛知県名古屋市	太田佳奈子氏	愛知県名古屋市
川村泰子氏	愛知県名古屋市	高橋英樹氏	大分県大分市

3 法人賛助会員

氏名	住所	代表者
有限会社エイム様	横浜市都筑区	石黒正樹氏

会員募集

今期は関係各位のご努力で正会員5名、個人賛助会員8名、合計13名及び法人賛助会員1社の入会を得ることができました。会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が245名（25.12.1現在）、法人賛助会員42社と目標にはるかに至っておりません。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人賛助会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正会員：航空自衛隊のOB

個人賛助会員：航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

○郵便 〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F
日米エアフォース友好協会 会員担当 行

○（会社）メール、電話

松田 和彦：kazuhiko_matsuda@mhi.co.jp 03-6716-4433

金子 康輔：kkaneko@mpcnet.co.jp 03-5531-8061

米沢 敬一：keiichi_yonezawa@mhi.co.jp 03-6716-4327

木村 孝：t-kimura@fq.jp.nec.com 03-3456-9762

編集後記

◇45号は、「現場における活動の様子をより分かり易くお伝えしたい」「写真を多く掲載する」「JAAGAらしい『だより』にしたい」との思いを込めて編集致しました。特集記事として、三沢基地における日米幹部夫人交流「みどり会」活動を紹介しています。

◇指揮官氏名、階級等は、記事当時のものです。

◇『JAAGAだより』はJAAGAホームページ（<http://www.jaaga.jp/>）からも閲覧できます。

◇だより編集員一同、今後もJAAGAの活動を地道にフォローしたいと思いますので、会員の皆様のご支援をよろしくお願い致します。
(編集子)

Garden party with JAAGA member, JAAGA honorary member, defense attache and their wives at Gen. (Ret.) Eberhart's house (P9-P12)



MIDORI-KAI ladies who enjoy making sausage at Kawayo Green Farm (P13)



"We are ready to case sausage now!"



"Right on! Right on!"



"Let's try to tie sausage strings!"



Mrs. Morimoto (left), Mrs. Ueda (center left), Michelle-san (center right), and Holly-san (right) pose with smiles, "We had the best mix of spices and herbs!"

USAF and JASDF NCO to deepen their friendship through training (Both Japan-U.S. NCO unit training in MIHO AB)(P3)

